

受講番号 19097 学校名 十川中学校 氏名 伊芸 美紀

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 16名
 科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Crown English Series 2(三省堂)

クラスの様子・特徴

全体として英語に対しての意欲・関心が高く、真面目に学習に取り組んでいる。また生徒同士の仲がよく、何でも言い合える良い仲間作りができています。しかし、真面目に取り組む反面、間違いを恐れてしまう傾向があり、自己表現活動に苦手意識を持っている。

問題の確定

英文を作る際に生徒は語順に対しての不安を持っており、そのことが自己表現活動に苦手意識を持つ要因になっている。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
全体として真面目に授業に参加し、表現を定着させるための練習にも真剣にまた楽しく取り組んでいる。しかし「英語で文を作る」ということに対して、まだ不安感を持っており自己表現活動は滞ってしまう。中には自分の力で書くことを拒否してしまう生徒もいる。	英文を作る際の一番不安なことに語句と語順を挙げておりそのために自信を持って自己表現ができないと感じている。しかしほぼ全員の生徒が英語で自分のことを表現する力を身につけたいという願いを持っているため、苦手意識を取り除くような指導が必要である。	第1学年終了時のCRT結果は「聞く・読む・話す・書く」の4領域ともに全国平均を上回っている。特に「話す」「書く」の能力は全国比110%を超える。しかし定期テストの表現問題のようにまとまった内容の文を書く問題は正答率52%と他と比べて低い。

リサーチ・クエスト

「語順」を定着させ、まとまりのある英文を書けるようになるにはどのような指導方法が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1 パターン練習やチャンツを繰り返すことによって、自然なリズムで語順が身につくだろう。	実践1 新出表現導入後ビクチャーカードを使って、新出表現の代入練習を口頭で行う。その際、一斉、ペア、4人グループでの練習で十分に言えるようになったことを確認し、個人での発表へつなげる。またチャンツは基本的に4人グループで行う。4人で完璧に言えるようになるまで練習し、発表する。チャンツの中、または最後のセンテンスに自分たち自身の答えを代入する部分を作っておくことにより自己表現へつなげる。	検証1 新出表現の口頭練習で全員(欠席1)が学習内容が理解できたと答えている。またその直後の語順並べ替え演習でも14名(欠席1)が正しく並べ替えられたが定期テストでの正解者数は10名(欠席1)となった。反復練習は表現理解に有用であることは生徒も理解し意欲的に取り組めるが、定着させるための継続した指導が必要であった。またチャンツは全員が楽しんで取り組めたと答えている。チャンツの中・後の自己表現も楽しめた。
仮説2 本文をチャンクごとに切ってわけ、Chunk by Chunk Readingをすることにより、「だれが」「どうする」という語順、前置詞句などが自然と身につくだろう。	実践2 本文の内容を確かめたあと、チャンクごとに区切った英文和訳表を渡す。その後チャンクごとの音読練習、センテンスごとの音読練習をペアやグループを中心に行う。何度も音読練習をした後、1文テストで確認する。この活動が定着した後、生徒自身でチャンクに分ける活動に取り組ませ、それを各課の予習課題とする。その後教科書の内容に合わせ自分の夢についての作文を書かせて検証する。	検証2 ほぼ全員がChunk by Chunk Readingによって英語の語順がわかるようになったと感じている。「文を作るのが前より簡単になった」など変化を喜ぶ感想がたくさんあった。作文は50語目標に取り組んだ結果平均語数が56.2語と目標が達成できた。事前に準備してきたということもあり語順の間違いは平均2.2文と少ない。内容的にはまだまとまりのある英文とは言えないが全員の意識に変化が見られ始めた。
仮説3 「語順徹底講座」を特設し、「だれが」「どうする」「何を」「何に」「どこで」「いつ」「どのように」という語順をもう一度論理的に確認することによって、語順の徹底が図れ、書く活動へつながるのではないかと。	実践3 Chunk by Chunk Readingが定着してきたので、もういちど文全体の仕組みを理解するために「語順徹底講座」を特設する。横になった人の絵を使って「大切なものから順番に」というキーワードで説明していく。次に様々な文型を『田尻悟朗の英語語順トレーニングノート』(教育出版)を参考に紹介し、それぞれの文型に合った例文を作らせる。この特設授業のあと、冬休みについての作文を書かせて検証する。	検証3 ほぼ全員がこの授業は英語の語順理解に役立ったと答えている。またこの授業後わかるようになったこととして「大事なところを最初にすること」「いつ・どこ・どの位置」などこれまでの疑問を整理できたようだ。作文は事前の準備もなく和英辞書使用可で行った。平均語数は60.9語と前回は上回り内容的にも時や理由を表す従属節を用いるなど充実してきた。「すぐに文が頭の中で書けるようになってうれしい！」という感想もあった。

研究の成果

課題を焦点化し生徒と共有することによって、教師だけでなく生徒も1時間1時間目標を持って授業に取り組めるようになってきた。もともと全体的に意欲・関心が高く、真面目な生徒が多い学級ではあるのだが、現状に満足することなくも上へとチャレンジすることの大切さに気付いたと思う。また1年を通して「語順」を意識した自己表現活動をしてきたことで、抵抗なく作文が書けるようになってきた。そして、そのことによって英語で自分を表現できることの楽しさ、うれしさを感じられたということが最大の成果である。

今後の授業改善の課題

自信を持って英文を書けるようになった生徒が大半である反面、やはり英語に対しての苦手意識を払拭できない生徒も数名いる。しかし学級の人間関係が良好であるため、グループで行う活動などは周りの支援で楽しく取り組んでいる。この良好な仲間関係を生かし、よりお互いが高まりあえる学習方法を模索していくことが今後の課題である。そして少しずつでも達成感を得られるような課題を設定し彼らの学習意欲を高めていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0880-28-5215